

低分子創薬 トレンド学ぶ くすりコンソ 富山でシンポ



創薬ベンチャーの専門家が意見を交わした
パネルディスカッション＝県民会館

県内の医薬品分野の産学官でつくる「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムは14日、県民会館でシンポジウムを開き、「低分子創薬の新たな潮流」をテーマに意見を交わした。

県内外の製薬企業や大学の関係者らが、会場とオンライン合わせて約240人参加。創薬を手がけるアリ

ヴェクシス（東京）の寺田央CSO（最高戦略責任者）ら3人の専門家が講演し、RNA（リボ核酸）を標的にした最先端の創薬研究などについて紹介した。

近年、創薬の現場では、特定の疾患に効果のある化合物を特定する「スクリーニング」にAI（人工知能）が使われており、寺田氏は薬になり得る低分子化合物の数は膨大だとして「AIで探索しなければならぬ領域はまだまだ存在する」と説明した。

パネルディスカッションもあり、3氏は「バイオ医薬品に押されているという見方もある中で、低分子がどう強みを見せるか試されている正念場だ」などと語った。